外国人雇用情報!vol.３

2023 年 8 月 28 日

一般社団法人大阪外食産業協会
外国人雇用推進部門長　井上　泰弘

「やさしい日本語」とは？

「やさしい日本語」とは、日本語があまり得意ではない外国人などへ正しく情報が伝わるよう、わかりやすい言葉や表現に言い換えた日本語のことです。たとえば、土足厳禁である事を【ここは、土足厳禁です。】と言うのではなく、【ここは、くつを ぬいでください。】と言い表す。これが「やさしい日本語」です。

“やさしい”には、かんたんな言葉を表す「易しい」と、相手に配慮する「優しい」気持ちの、二つの意味が込められています。1995 年の阪神淡路大震災で、被災外国人の多くが必要な情報を手に入れられず大変苦労した事実から「やさしい日本語」が生まれました。外国人の増加にともない、地方自治体やマスコミなどから「やさしい日本語」で情報発信される機会が近ごろ増え、よく目にするようになりました。

日本語の習得は、他の言語に比べてとても難しいと言われています。

・日本語特有であるひらがな・カタカナに加え、大量の漢字も覚える必要があること
・日常生活に必要な語彙の量がとても多いこと(3 万～4 万語)
・方言が細かく分かれていること　　など、日本語習得が困難な理由はいくつもあります。外国人向けのメジャーな試験である日本語能力検定（JLPT）最高位の N1 であっても目安の語彙量は 1 万ほど。日常生活に必要な量である 3 万とは大きくかけ離れています。さらに在留資格「特定技能1号」の要件である N4 は約 1500 語。わずか 20 分の 1 です。また、従来の日本語教育は標準語が主で、方言学習はおまけ程度。【アカン】や【行かへん】などと言われても、標準語で学んできた外国人には理解が困難です。

つまり、たとえ N1 を持っている外国人材を採用しても実際には、最初から日本人並みに日本語で意思の疎通が出来る訳ではないということ。関西弁が飛び交う職場であればなおさらです。“じゃあもっと日本語を勉強させれば良い”という声が聞こえてきそうですが、言語学習は一朝一夕で急に効果が表れるものではありません。そのような中で、外国人材との不要な行き違いを生まないようにする有効な手段こそが、「やさしい日本語」です。

① です・ます体で話す(日本語学習者が最初に勉強するのが「です・ます」であるため)
② 漢字の熟語やカタカナ語、敬語、擬音語など、外国人にとって理解が難しい種類の言葉は極力使わない。
　【例:開始・スタート⇒はじめます】
③ 一文を短くして、ゆっくり・はっきり話す。
　【例:トイレの掃除が終わったら手を洗ってバッシングしてほしいんだけど。
　　⇒トイレの そうじの あと、てを あらってください。そして、おきゃくさまの おさらを かたづけてください。】
④方言を使わず、標準語で話す
　【例：はよ、お皿なおして。 ⇒ はやく おさらを かたづけてください。】

外国人材と話す時は、以上の4点を心がけることをお勧めします。

言語の壁は外国人材の心に孤独感や疎外感を植え付け、それが外国人材と日本人との間に大きな溝を生みます。もちろん外国人材が継続的に日本語を学習することも大切です。しかし店舗や自社、ひいては外食業界を支える仲間として外国人材を温かく受け入れるためには、まず受け入れ側の配慮が肝要と言えます。「やさしい日本語」を用いてコミュニケーションをとることにより、外国人材が安心して働ける雰囲気を創出すること。これこそが、外国人材との共生の第一歩なのです。

株式会社 Futaba（ORA 賛助会員社）
代表取締役　国定　三恵（ORA 外国人雇用促進部門会　業務委員）

就労外国人向け企業出張研修や技能実習生の生活指導を含めたトータルサポート、日本人社員向け研修で多数の実績を収めている。あらゆる国の学習者と触れ合っていく中で、お互いが相手の価値観を理解し、認め合うことが大切だと感じ、共に笑い(共笑)、共に成長し(共育)、共に人生を楽しめる(共楽)、多文化共生社会を目指す。その原点に立ち、現在は日本在住の外国人の方々へ言語指導だけではなく、日本の文化、慣習、ビジネスマナーから日常の生活指導まで幅広いサポートを実施している。